

# 「公益財団法人 日本城郭協会 平成30年度事業計画」

平成30年3月

## 1、「続日本100名城スタンプラリー」4月6日開始

平成29年3月、当協会創立50周年記念事業として「続日本100名城」を選定、4月に発表した。が、「続日本100名城スタンプラリー」について多くの要望が寄せられた。これに応えるべくスタンプデザインを含めたスタンプ製作や各城のスタンプの設置場所調整などを急ぎ、平成30年4月6日（城の日）に正式にスタンプラリーを開始する。

## 2、日本城郭協会・花王・共同キャンペーン「お城をきれいにしよう（仮称）」実施

当協会は花王グループカスタマーズマーケティングと共に「お城をきれいにしよう（仮称）」キャンペーンを展開、実施する。

この企画は「東京オリンピック」にむけて日本をきれいにする運動を行っている「花王」から提案されたもので、当面キャンペーンの対象は「日本100名城」とする。具体的には各城のトイレをきれいにしようというもので、キャンペーン・イベントとして、100名城から数城を選び1日ボランティアを募集して当該城のトイレの清掃などを行う。

そのための準備作業として「100名城」の管理者に対しトイレ清掃の実態調査のアンケートを行う。

## 3、「お城EXPO・2018」の開催

平成28年12月にパシフィコ横浜で初めて開催し評価を得た「お城EXPO」だが、本年も「お城EXPO・2018」として12月に開催する。

主催4者「(公財)日本城郭協会・(株)ムラヤマ・(株)東北新社・(株)パシフィコ横浜」による実行委員会方式で12月22日（土）～24日（月・祝日）の3日間の開催となる。会場はパシフィコ横浜。なお本年から企画委員会を設け、講演を中心に魅力的な企画を開発する。

#### **4、「日本100名城スタンプラリー強化」及び「日本100名城・城カードの監修」**

当協会選定の日本100名城を探訪する「100名城スタンプラリー」はますます評価が高く、100名城登城達成者は2000人を超えた。こうした状況をさらに発展させ、城郭文化の振興に寄与する事業として企画していた「日本100名城・城カード」は当協会が企画・監修を行い、(株)ムラヤマが製作・販売する。

#### **5、「親子名城見学会・城の自由研究コンテストの継続・強化」**

第15回の「親子名城見学会」と「城の自由研究コンテスト」は児童・保護者さらに教育関係者からの評価も高く、大きな教育的成果を上げたが、平成30年度も一層の充実を図る。

具体的には「名城見学会」では地域のバランスに配慮し東北、関東、北陸、中国、九州から開催する城を選ぶ。候補城は白石城（宮城県）川越城（埼玉県）江戸城（東京都）福井城（福井県）津山城（岡山県）福岡城（福岡県）とする。また「城の自由研究コンテスト」は29年度に新設した団体賞（学校賞）を含め、学校や応募者に向けてのPRをさらに強化する。

#### **6、「日本城郭検定の強化・充実」**

日本城郭検定は本年も2回開催する。6月に予定している第12回検定では、城郭ファンにアピールするため、旅行会社とのタイアップで「検定講座」を企画する。また受験者の便宜を図るため新たに福岡に試験会場を設け、試験会場は全国で5箇所とする。

#### **7、「熊本城復興義援金などの熊本城復興支援事業を継続」**

平成28年度新設した熊本城復興支援のための「熊本城復興義援金」は30年度も継続し様々な場面で幅広く寄付金を募り、復興支援を継続する

#### **8、「城郭セミナー及び城郭イベントの開催」**

大学の社会連携部門などと連携して城郭講座や城郭セミナーの開催を検討、実施する。

また各都道府県や各市の生涯学習部門から「城講座」の依頼が最近多くなっているが、これらの要望には積極的に対応して、人々の城への関心の高まりに応える。

城ブームの高まりに応じて、多くの城郭ファンが望む「城郭探訪イベント」を企画、開催し、協会会員へのサービス強化に努める。

## 9、「学術委員会の活動強化及び学術委員の拡充」

学術委員会の活動を強化する。お城E X P Oの講演企画にも積極的に関与すると共に「日本城郭検定」の問題作成を主導し、検定問題の充実を図る。また当協会の公認サイト「城びと」へ協力を強化するほか、「城郭講座・城郭セミナー」開催など積極的に対応する。

学術委員に城郭研究者や各城の学芸員を新たに委嘱する。

## 10、「ヨーロッパ100名城の調査・研究会」

「ヨーロッパ100名城」の社会的認知度を高めるための調査研究の旅行企画などを旅行会社と提携して実施を検討する。

## 11、「テレビ・新聞・出版物への監修・助言の体制強化」

テレビ・新聞などマスコミの城郭に関する問い合わせには、学術委員と協力して事務局全体で対応する。また一般の人々からの質問にもきめ細かく回答して感謝されているが、データの整備など体制をさらに充実させる

## 12、「会報・ホームページの一層の充実および会員増強への取り組み強化」

会報の増ページは会員からの評価を得たが、会員の寄稿欄の一層の充実を図る。また多くの会員からの寄付に応える意味でも会員が参加できる事業への特別優待制度や会員相互の懇親と情報交換など会員サービス強化に努めると共に会員増強をはかる。

4月から6月まで会員増強月間とし、全会員にも協力を求める。ホームページは内容、運営方法の改善に努め、魅力的なホームページを提供する。

具体的にはきめ細かい情報、多彩な城郭情報を提供するだけでなく、最新の情報をアップする。さらに事務局の広報体制を強化すると共に、情報収集の仕組みとして各地に広報協力員配置を具体化する。